

13 まとめ

各職業能力開発施設では、技術革新に応じた訓練ニーズに対応する既製教材の確保が困難となってきている。このような状況から、自作教材が必要となってきているが、教材作成は容易にできるものではなく、これが訓練ニーズに即応するための大きなネックとなっている。

このため、平成4年度に教材作成の実態等を調査し、教材開発を支援できるシステムの必要性和概念等について研究報告を行っている。今回は、このシステムをより具体化するための検討委員会を設置し、システムに関するアンケート調査等を行い、二次情報だけではなく、加工のできる一次情報のデータベース化とその機能等について検討を行い研究報告書を作成した。

時代にマッチした訓練実施のためには、在職者向け訓練コース等の全文型モデル教材、全文型訓練指導案、教材部品としての図形等一次情報及び参考文献等の二次情報をデータとし、一次情報を必要に応じて自由に加工ができることが必要であることと同時に、必要とするデータの検索等が容易に行われることも必要である。

全文型モデル教材としては、現在各職業能力開発施設において使用されている訓練用教材から汎用性等を基準として選定することが時間的、経済的等から最良と考えられるが、ほとんどの自作教材が著作権問題からデータとなり得ない状況にある。

このため、支援システムを構築するに当たっては、オリジナルのモデル教材を作成する必要が生じるが、その場合には、担当と相当の期間、費用、労力等を必要とする。また、教材部品として入力すべき図、イラスト等の収集、JIS規格等の選定、文献情報の収集業務等が必要となり、検索効率をあげるためのインデキシング等データの加工・入力等の業務及び費用が付帯するほか、システムを使いやすいものとするためには、DBMSの性能が大きく影響することに十分な配慮を要する。

このためには、システムの構築に関して、予算的措置とユーザの意見が十分に反映されることが不可欠である。したがって、本システム全体を考慮するときには、その規模等から業務の実施体制を整える必要が生じる。データの入力機能としては、媒体別にその特徴に最も適した入力法と使用のことも考慮のうえ選定する必要がある。

データベースソフトに付随する機能としては、検索キーワードの設定があるが、キーワードの設定を特定の人が行うかどうかによって均一性の問題が生じることがあることを考慮した場合、機械的キーワード設定のことも念頭におくべきである。また、検索はデータの内容別によりコード、キーワードの使い分けも必要となろう。データベース管理システム機能としては、ガベージ・コレクション、セキュリティ機能、利用にかかるカウント機能等について考慮する必要がある。

労働省、雇用促進事業団関係データベースとのインターフェイスについても、情報の有効利用の立場から将来的には考慮する必要がある。システムの管理運用機能としては、中央システムとしてデータの収集と精査、加工・入力、データの要請に対するFDD等での対応、データの廃棄等に対応する必要がある。運用の省力化自動運転機能や管理資料作成機能等を設けることも必要となろう。さらに、マルチメディアの進展を見ながらグループウェア機能対応も考慮する必要がある。